



あだち野のむかし物語

香野姫明神①

ずーっと、ずーっと、昔ナイ。

長徳元年(995年)左近衛中将にまで昇った歌人の藤原実方朝臣は、殿上で大納言藤原行成と口論の末、笏で行成の冠を打ち落としてしまい、一条天皇の勘気に触れてしまいました。天皇から、「陸奥の国の歌枕(歌を詠む時の言葉や詠まれた名所など)を見て参れ。」と命ぜられ、陸奥守に任ぜられて下向してきました。

陸奥の国に来て四年の間、各地に歌枕を尋ね歩いたが、阿古屋の松に限って所在が分からず、いたるところ、阿武隈の東に六本松という名木があることを聞き、その地に行ってみたがなかったのです。疲れ果てた実方がこの時、「陸奥の阿古屋の松をたずねかね身は朽ち人となるぞものうき」と詠みました。

小手森の樵明神は、実方の心をお憐れみになり、樵の老夫に身を

変えて、疲れて倒れている実方の袖を引いて目を覚まさせ、次のように教えました。

「陸奥の阿古屋の松の木の高さに出づべき月の出るもやらねば』の古歌の心で陸奥を訪ねるこの歌は、古い陸奥・出羽が一つの国で陸奥と言っていた時に詠まれた歌なのです。その後、陸奥を割って出羽国が置かれたのですが、阿古屋の松は出羽国にあるので、その地を探すのがよいでしょう。」
 実方は、出羽国に赴き、阿古屋の松を訪ねることが出来たのです。しかし、その帰途を急ぐあまり、岩沼(宮城県)辺りで落馬し、帰らぬ人となってしまいました。

一方、都にある実方の留守宅では、歌枕をたずねて陸奥の国に行った主人の実方の安否を心配していました。幾年過ぎて帰って来ないばかりでなく、何の便りす

らもないのです。実方の奥方である香野姫は、次第に気もなくなり身は細るばかりでした。或る日、ついに香野姫は、夫実方の身を案じて日毎に募る思いを抑えきれずに、その後を追って旅に出ようと心に決めたのでした。成せばなる女の身とて決して出来ない事はな

(5月号へ続く)



あだち野のむかし物語
安達地方広域行政組合
ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和7年1月~2月末)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗							
空き巣		1(1)				1(1)	1
出店荒し		2(1)				2(1)	4
その他	2(2)	2(1)				4(3)	4
非侵入盗							
万引き	6(6)	5(2)				11(8)	7
車上ねらい							
その他	10(6)	3(2)	6			19(8)	17
自転車盗	1(1)	1				2(1)	2
器物損壊		1(1)				1(1)	1
住居侵入	2(1)					2(1)	2
その他	4(3)	2(2)			1	7(5)	1
合計	25(19)	15(9)	6		1	47(28)	35
前年対比	19	12	3		1	35	

※()は2月の発件数



地域で子供の見守りを!!
 日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。



儲かる! 絶対大丈夫!

☆☆それが一番危険☆☆

SNS型投資・ロマンス詐欺が増加しています。詐欺に注意!



—POLICEアプリふくしま登録募集中—

福島県の安全安心を守るアプリです。QRコードから登録してください。二本松警察署電話 23-1212

